



あすなろ

特別支援教室あすなろ
令和7年 7月 No.3

こんな「困った」ありませんか？

今年度、特別支援教育や特別支援教室で行っている支援について年6回あすなろだよりでお知らせしています。日常生活のお子様との関わりの中で、お子様自身が『困った』と感じていること、保護者の方が『困った』と感じていることがあると思います。あすなろだよりを通して、6つのケースを紹介していきます。お子様との関わり方のヒントにしたいだけだと幸いです。

それぞれのケースについて、**実態** → 『困った』の背景にあるもの → **対応・支援** の流れで紹介します。

ケース2 落ち着きがなく、つねに動き回っている。

子供の实態

家では、おもちゃを次々と出しては片付けない。

朝の支度は、気が散って進まない。

保護者は、いつも追いかけて、大きな声でしかっているが、あまり改善が見られない。

『困った』の背景にあるもの

目に入ると見たい、触りたいと、考える前に行動してしまう。

言葉での情報が、入りにくい。

対応・支援

① 刺激を少なくして、気が散らない環境を整える。

→子供が起きたら、テレビを消す。

② タイマーを使う。

→タイマーを活用して、見通しをもたせる。

③ 毅然とした態度で関わる。

→徐々に習慣付いて、しかる回数も減る。

④ 視覚的に伝える工夫をする。

→「やることボード」で、一つずつ確認する。

→子供の衣類やよく使う小物類は、引き出しに写真を貼り、片付ける場所を分かりやすくする。

→靴の左右を間違えないように、左右の靴に絵を描く。